

種子を食べるかぼちゃ新品種

ストライプペポ



育成期間：平成21年 ▶ 平成23年

「ストライプペポ」は平成26年度に品種登録された、北海道～東北に代表される寒地地域向きのペポカボチャ品種です。

果実から取り出した種子は、すぐに洗浄・乾燥して菓子のトッピングなどに利用できます。



品種の特徴

- 種子に殻が無く、種子収量が既存品種に比べて多い
- 株元着果性が高く、側枝も少ないことから、収穫作業の省力化が可能



農研機構 北海道農業研究センター

ストライプペポ

カボチャの種子は現在、菓子のトッピングやナッツの素材として利用されていますが、そのほとんどは中国産です。一方で、加工業者からは国産のカボチャ種子を使いたいという要望があります。ところが、普通のカボチャの種子には厚い殻があることから、それを取り除くのに多くの時間や人手がかかってしまいます。そこで、ペポカボチャの中の遺伝的に厚い殻を作らない系統（Hull-less系統）を用いて食用種子の生産量が多く、栽培がしやすい品種「ストライプペポ」を開発しました。

品種の特徴

- 既存品種に比べて、生育初期は蔓が伸びにくく、株元着果性が高い品種です。
- 側枝の発生が既存品種よりも少ないです。
- 果実は1株あたり、1～2個つきます。
- 種子には、厚い殻がありません。

果実の特性

- 育成地（札幌市）で8月末～9月上中旬に収穫できる品種です。
- 果実外観は橙色に濃緑色の縞（ストライプ）が入ります。
- 果実は4kg台と大きく、その中に濃緑色の種子が80～90g入っています。

栽培上の注意

- 蔓および葉に棘があることから、栽培管理においては厚手の手袋や作業服の着用が望ましいです。
- 密植栽培（畝幅150cm、株間60cm）で栽培可能です。
- 本品種は種子を食用とするかぼちゃのため、農薬取締法上「サンケイ園芸ボルドー」、「イオウフロアブル」、「アグロスリン乳剤」および「イデクリーン水和剤」が使用できます。
- 果実は腐敗に弱いため、収穫後一か月以内に種子を果実から取り出してください。

「ストライプペポ」の主な栄養素

「ストライプペポ」種子の約半分は脂質が占め、ミネラルではマグネシウム、リンおよび亜鉛が多いです。

種子原料	Mg	P	Zn	脂質
	(mg/100g)			(g/100g)
ストライプペポ	537	1220	9.3	48.5
アーモンド	310	500	4.0	54.2
ピーナッツ	170	380	2.3	47.5
クルミ	150	280	2.6	68.8

※データはノーステック財団の「平成24年度食用かぼちゃの地域ブランド化基盤形成事業報告書」を抜粋。ストライプペポ種子は和寒町産のものを使用した。

「ストライプペポ」の10aあたりの種子収量（2009年度）

